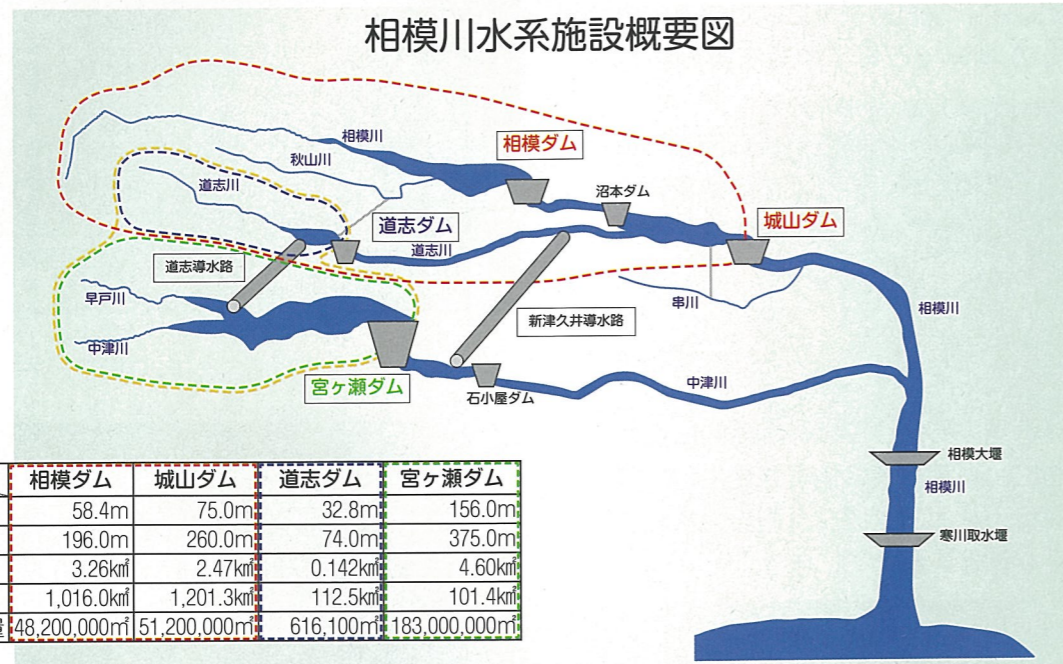


# 津久井湖のはたらきのために

## 城山ダムと総合運用

相模川水系では水資源の有効利用を目的に、2本の導水路により相模ダム・城山ダム(神奈川県)と宮ヶ瀬ダム(国)の3つのダムを連携させ、それぞれの特性を活用した水の総合運用を行っています。



相模ダム・城山ダムの集水面積は、宮ヶ瀬ダムの集水面積に比べ約12倍と広く、水を貯めやすい反面、水を貯める容量は宮ヶ瀬ダムの約半分しかありません。相模ダム・城山ダムに貯めきれない水は、無駄に放流されてしまいます。それぞれのダムの特性を活かすため、導水路によって宮ヶ瀬ダムと連携することで、このような無駄を少なくして、相模川流域において効率の良い水運用を行っています。

## 津久井湖の湖面管理

津久井湖では、危険な箇所への立ち入りや、許可された船以外の航行、遊泳などが禁止されています。

このため定期的に津久井湖内を船で巡視し、確認しています。



湖面巡視

台風や大雨などの後には、水とともに大量の流木(小枝、草木を含む)・生活ゴミ・不法投棄物が津久井湖へ流れ込んでいきます。

城山ダムに漂着した流木などは、津久井湖内から引き上げた後、生活ゴミなどと分別を行ない、流木については、廃棄物の減量化と環境への負荷を低減するために、チップ化(粉碎)し、リサイクルを図る活動に取り組んでいます。

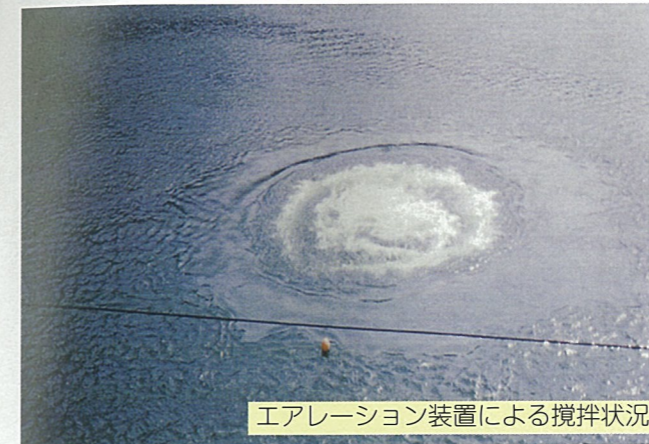
チップ化された流木は、ガーデニング等に利用してもらうため、無料で配布しています。



流芥処理

## 津久井湖環境整備事業

津久井湖では湖内の富栄養化が進み、夏期になるとアオコ等の植物プランクトンが大量発生し、一部では湖面にアオコの集積現象が見られるようになりました。これに伴って、河川環境の悪化や浄水処理障害などの被害が発生したため、アオコ等の植物プランクトンの発生・増殖抑制対策として、湖水循環施設(エアレーション装置)を、平成5年から平成9年にかけて設置しました。その後、一層の水質改善を図るため、ダム沿岸部に植生態を創出し、自然浄化機能を活用した植物浄化施設を整備しました。

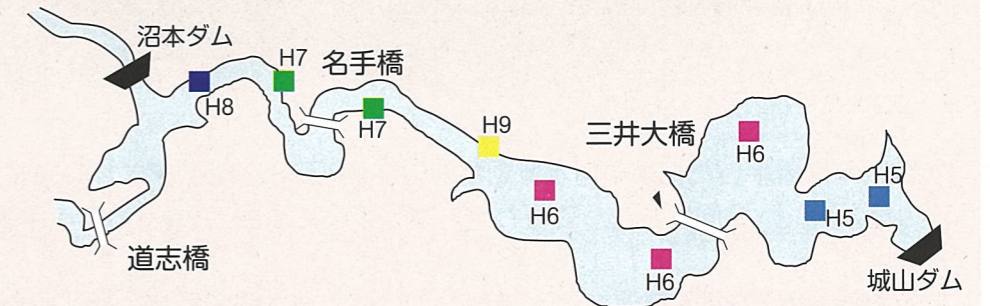


エアレーション装置による攪拌状況

エアレーションは、空気の泡を発生させ、浅いところの水と深いところの水の入替えを図り、水温を一定にし、かつ、表面の藻類を光の届かないところに送りこむことにより、藻類の増殖を抑制します。

## エアレーション装置位置図

- 平成5年度設置
- 平成6年度設置
- 平成7年度設置
- 平成8年度設置
- 平成9年度設置



三井植物浄化施設

三井地区においては棚田に湖水を通して、チッソ・リンなどを、植物の自然浄化機能により取り除く植物浄化施設を整備しました。

沼本地区においては、平坦地形だった場所に、傾斜斜面を造成して水辺を創出し、水辺を中心とした植生の促進を図り、植生による湖水と湧水の水質浄化と多様な生態系を創出しています。

年に1回程度、水質・底質・生物調査を実施し施設の実態把握及び浄化効果のモニタリングを継続的に実施しています。